

第1章 審議テーマの設定

平成30・31 年 神奈川県青少年問題協議会は、情報ネットワーク社会における青少年のコミュニケーションの現状を踏まえ、青少年の育成・支援について調査審議を行うこととした。
＜協議の視点＞

- 青少年のコミュニケーションのあり方
- 困難を有する青少年への支援
- 情報ネットワーク社会への対応

第2章 情報ネットワーク社会の中の青少年～現状と背景～

1 青少年のコミュニケーションの状況

- (1) 日常のコミュニケーションを支える SNS
SNS は、青少年の人間関係を維持するインフラとなっている。
- (2) 言語能力の低下とコミュニケーション
青少年は、体験の不足から自分の気持ちを言語化することが難しくなっている。
- (3) 青少年の自己形成
情報ネットワーク社会の中で子どもが成長し、どのように生きていくのが新たな課題である。
- (4) 社会の状況
旧来の考え方や制度が残り、青少年が社会参加する仕組みが不十分となっている。
- (5) 地域の状況
地域の自治会などのつながりが弱くなっている。

2 困難を有する青少年の状況

- (1) 安心して失敗できる場の不足
青少年が失敗する体験や、安心して失敗できる環境が不足している。
- (2) 青少年が社会に出る準備の難しさ
不確実性の高い社会状況など、青少年が就職など先を見通しにくくなっている。
- (3) 生きづらさを抱える青少年
青少年は、貧困やネグレクト、過保護・過干渉によるストレスをためている。
- (4) 困難を有する青少年とコミュニケーション
ひきこもりなどの青少年には、コミュニケーションに苦手意識があることや家族以外の人と出会う機会が少ないことがある。

3 情報ネットワーク社会の状況

- (1) SNS 普及における弊害
情報技術は効率性をもたらした一方、「SNS 疲れ」などの問題を引き起こしている。
- (2) 情報技術の活用
デジタルネイティブ世代と言われる青少年は情報技術の活用に長けている。

第3章 情報ネットワーク社会におけるコミュニケーションと育ちを考える～議論のポイント

1 情報ネットワーク社会における青少年の信頼関係の構築と成長

青少年は SNS 上の信頼関係を育んでいる/信頼の質や形が、流動化する社会の中で変わっている/青少年は SNS 上で他人にどう自分を見せるかを意識している

2 曖昧なコミュニケーションが人間関係におよぼす影響

青少年のコミュニケーションは厳密ではなくある幅の中で進む/互いに相手を傷つけ合わないようにやり取りをする/なぜ青少年が SNS で曖昧に表現するのかを問う必要がある/今の青少年を前提とした健全育成の方法を考えなくてはならない

3 親子のコミュニケーション

子どもの気持ちを深く問う親子関係が少なくなっている/社会性を育むソーシャルスキルトレーニングを支持する親もいる/他の親子の関わりを目にすることが減る一方で、SNS などでキラキラ光る親子関係を目にする機会が多い

第4章 実践検証事業～青少年のコミュニケーションに関する意識調査～

○ 調査概要

本調査は、企画調整部委員が第3章の議論のポイントを柱に、青少年に聞き取りを行い、これまでの議論の検証を行った。

○ 検証結果

- (1) 青少年の SNS 利用について
SNS の種類ごとに使い分け/受動的な SNS 利用/身近な仲間とのコミュニケーションツール
- (2) 青少年のコミュニケーションについて
自分も相手も傷つけないよう気づかう関係/SNS での信頼関係構築は否定的
- (3) 「キャラクター」とアカウントの使い分け
実名ではないアカウントで「キャラ」を使い分け/日常生活でも「キャラ」を変える
- (4) 「趣味などの目的」とアカウントの使い分け
趣味などを目的としたアカウントの使い分け/身近にいない同じ趣味を持つ人とつながる

第5章 情報ネットワーク社会における青少年育成・支援に向けて

1 青少年を育むコミュニケーション

- (1) 自己形成に必要な他者との関係を育む
・ SNS によるコミュニケーションは人間関係の拡大にもつながっている。SNS を能動的に活用していくことも大切である。
・ 青少年のコミュニケーションの現状を理解し、青少年が他者との関係を育み、成熟していく方法を探していく必要がある。
・ ひきこもりなど困難を有する青少年が、信頼できる人と SNS によるコミュニケーションの機会を持つことは、その成長や発達に有益である。
- (2) 自己肯定感を育むことを大人が意識する
・ 大人が子どもを無条件に受け止めること意識することや、信頼できる大人の見守りの中で、子どもが、自分が役に立つなどの経験を積んでいくことが大切である。
- (3) 成長のきっかけとしての SNS 利用を進める
・ 青少年の育成・成長においては「空間、時間、仲間」が必要であるが、今の青少年の多くはそれらが少なく、経験を蓄積することが難しい。
・ 日常ではできない体験や学びがもたらす影響は大きいいため、積極的にリアルな生活とバーチャルな空間を結びつけ、質の高い生活環境にしていく視点を持つことが大切である。

2 社会の中で生きづらさを感じている青少年への支援

- (1) 青少年の情報行動から相談・支援の仕組みをつくる
・ 青少年が SNS、インターネットで情報収集する行動を意識した支援を進める。
・ 青少年を対象にした相談では SNS を活用することが必要である。
- (2) 「ゆるい相談」と「寄り添い型」の相談・支援の場をつくる
・ 学校の保健室のように、何でも相談できる緩やかな相談の場が必要である。
・ 寄り添い型の支援や様々な情報ツールを使った相談が有効である。

3 青少年の健全育成と情報ネットワーク社会

- (1) 大人も青少年も情報リテラシーを高める
・ SNS などでは、プライベートな日常の出来事が、パブリックなネットの空間に情報として発信され、青少年がトラブルに巻き込まれることがあるため、大人も青少年も情報リテラシーを高める必要がある。
- (2) 地域や行政が SNS を活用する
・ 青少年に合わせ、行政や地域は SNS などメディアを積極的に活用していく必要がある。
- (3) 情報ネットワーク社会における学び
・ 青少年が、テクノロジーにより新しい遊びや学びを生み出し、実践できる機会の提供が重要である。